

第10回関西3空港懇談会 報告

1. 基本認識

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、関西3空港、特に国際線を主力とする関西空港は危機的状況にあることから、関係者が緊密に連携し、復活に向けた取組を進めることが必要という認識で一致した。
- ・2025年大阪・関西万博、ワールドマスターズゲームズ2021関西など、今後予定されている大型イベントに向けて、新型コロナウイルス感染症による課題を克服しながら、地域が一丸となって必要な取組を推進することを確認した。
- ・さらに将来にわたる関西経済の発展に向けて、第9回懇談会取りまとめで合意した取組を進めていくことを確認した。

2. 各空港に関する課題と取組方向

(1) 関西空港

- ・出入国制限に伴う需要消失が続く中、国際線旅客が大半を占める空港の諸機能を維持し需要回復への道筋を確保するためには、これを支える就業者1万7千人の雇用維持が必要不可欠であること、並びに水際対策を一層拡充することの必要性を確認した。
- ・2025年大阪・関西万博及びその後を見据えたT1リノベーション計画について、関西エアポートから、関係者と連携して進めたい旨の説明がなされた。地元自治体・経済界としても、世界水準のインバウンド対応機能の実現、旅客処理能力の大幅向上と過密化対策などの意義を改めて確認し、2025年大阪・関西万博の成功には不可欠な事業として、最大限、協力支援を行うことを確認した。
- ・関西国際空港の将来航空需要に関する調査委員会について、検討状況の報告がなされた。今後は、新型コロナウイルス感染症の影響等を精査の上、検討結果を次回（第11回）懇談会において、報告を受けることとした。

(2) 伊丹空港

- ・関西エアポートから、2020年8月のグランドオープン、定時運航率向上の取組状況について報告がなされた。引き続き、地域社会との共生を基本に、環境改善と利用者利便の向上に努めることとした。

(3) 神戸空港

- ・関西エアポートおよび神戸市から、国内線発着枠・運用時間の拡大に対応した取組やアクセス改善の取組について報告がなされた。今後は、中期の視点に立った取組として第9回懇談会取りまとめで合意した関空・伊丹を補完する観点からの国際化を含む空港機能のあり方の検討について、新型コロナウイルス感染症の影響等を精査の上、新たな需要喚起の可能性など、引き続き、関係者による調査・検討を進めることとした。

3. 国等への要望

- ・関西3空港の機能維持、水際対策の強化、T1リノベーションの着実な実施について、国等への要請を決議した（別紙）。

以上